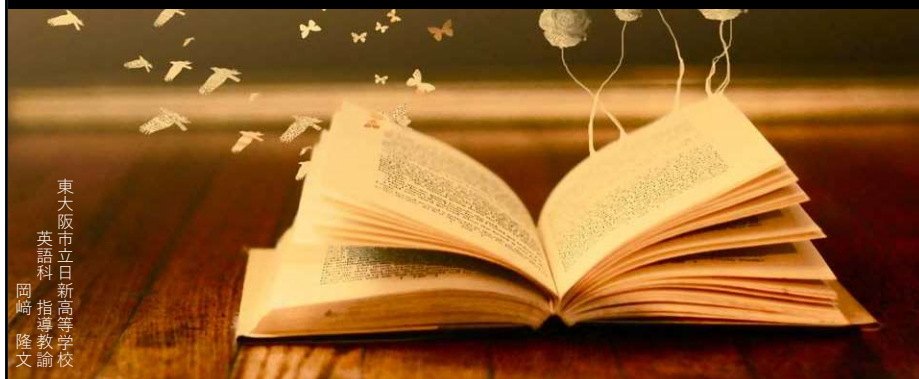


英語で多読はじめました・・・

インプットからアウトプットへ広がるSLA実践



東大阪市立日新高等学校
英語科 指導教諭
岡崎 隆文

多読 (Extensive Reading: ER) とは・・・

- 生徒が自然に本を読めるようになることを手助けするリーディングの指導法。
- 生徒はテキストを速くスムーズに、しかも大部分を理解しながら、辞書なしで読む。
- 目的は読みの流暢さ (reading fluency) や速さを身につけること。
- 生徒がそのときの自分の力で読めるレベルで自然に読む練習。

「学ぶために読む」 & 「読むことを学ぶ」

“Read to Learn” & “Learn to Read”

学校で本を買ってもらいました・・・

◆Who is/wasシリーズ

先駆者、伝説的人物、革新者、創造者たちの驚くべき物語を紹介。芸術家、科学者、世界のリーダーなど、歴史上の重要人物を取り上げた若い読者向けのイラスト入り伝記シリーズ

◆The magic school bus シリーズ

不思議なスクールバスに子どもたちを乗せて太陽系や恐竜時代など様々なところへ連れて行く作品。冒険を通じて子どもたちは科学の基礎知識を身につけていく

◆Diary of a Wimpy kidシリーズ

中学生のグレッグ・ヘフリーが自分の日常を日記に書き記すユーモラスな物語。学校での困難、家族との葛藤、友人関係の問題など、さまざまな出来事を面白いイラストとシンプルな言葉で描いている

The Magic School Bus



英字新聞

thejapantimes **alpha**

「The Japan Times Alpha」の特徴

毎週約8,000語の英語に触れられる！

実践的な多読が自然に身につく最新ニュースから科学、スポーツ、旅行、エンタメまで、多彩なジャンルの記事を厳選。

各記事は英語学習に最適な長さに調整され、文法や語法のポイントも解説付き。

重要ニュースを中心に、国内・海外の記事も充実しているので、楽しみながら多読の習慣が身につく、自然と読解力アップ



東大阪市立永和図書館 × eステ COSMOPIER B STATION × 日新高校



英語 読み放題 コース

普段着で英語を読む力、「多読」で確実にアップ！

「多読の森 英語読み放題コース」 ここがポイント！！

- 1 やさしい英語の本が読み放題
※1冊1000文字以内の本が対象です。
- 2 多読用に制作された魅力的なシリーズがたくさん
※1冊1000文字以内の本が対象です。
- 3 すべての本は朗読音声付き！ 多聴もできる
※1冊1000文字以内の本が対象です。
- 4 いつでもどこでも学習可能 PC/タブレット/スマホでOK
- 5 どんどん増えるコンテンツ



リーディング



Reading Quiz



聞き読み



リスニング



シャドーイング



サマライズ

今年度10月より：週3回の朝の読書活動

多読で意識していること・・・

➤ 楽しく、大量に読む

➤ アウトプットを意識したリーディング

➤ まとまりのある文章を読んだの概要把握
⇒ 7～9割の理解度で読む

➤ 辞書を使わない

⇒ 未知語を推測

⇒ わからない部分があっても先へ先へと進む

➤ 英語は英語のままで理解する

➤ 好みの本を読む (途中で本を替えてOK)

言語習得について

Stephen Krashen



Input Hypothesis

Merrill Swain



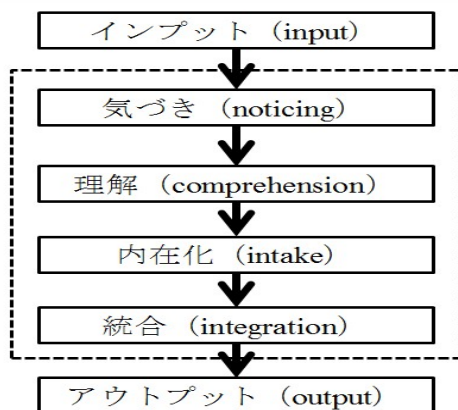
Output Hypothesis

Michael H Long

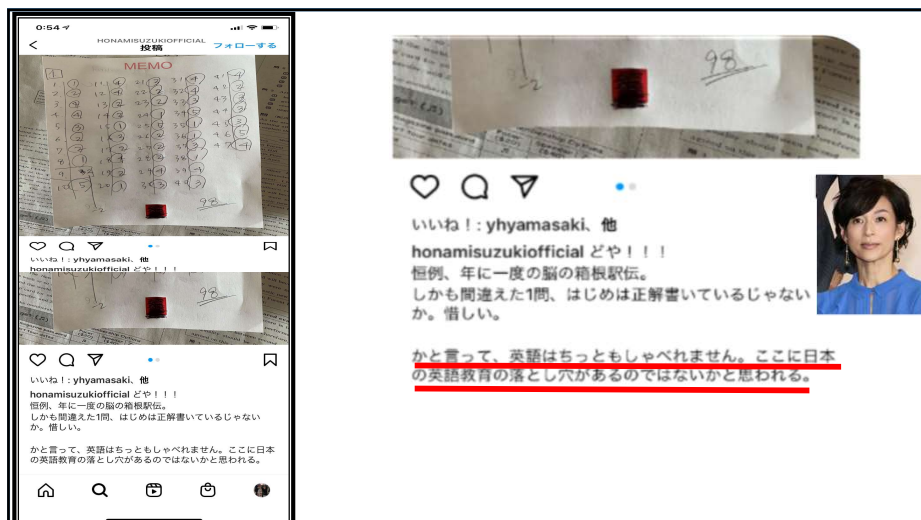


Interactional Hypothesis

言語習得について②



4技能5領域・・・



インプット⇒アウトプットへ

- Krashenの「**インプット仮説**」では、理解可能なインプット (i+1) が重要
- Swain (1985) は「**アウトプット仮説**」を提唱し、「言語を使って表現すること (出力) が習得を促進する」

多読でインプット → Book Reportでアウトプット＝両仮説を統合的に活用！

本校英語科での実践

INPUT

OUTPUT

多読

- ①プレゼンテーション
(Speaking)
- ②Book Review
(Writing)
- ③ビブリオバトル
(Speaking)

1 プレゼンテーション

2 Book Review

Book Review 英語の本を読んだレポート

★英語の本を読み、レポートを書きます。
STEP1 静観しながら英文を読む → STEP2 なんとなく出てきて分からない単語は辞書を引く → STEP3 もう一度読む

Useful Expressions

① About the Book (本について)
Topic: I'd like to report on . . . I'd like to summarize . . .
「私は . . . をレポートします」 「わたしは . . . をまとめます」
本の構成説明: The book can be divided into . . . parts
「この本は . . . のパートに分けられます」

② The Story (話の内容)
内容構成: In the first ~ . . . In the second ~ . . . In the final ~ . . .
「最初の～では . . . 」 「次の～では . . . 」 「最後の～では . . . 」
内容を伝えるために使える動詞
...meets... ...leaves... ...lives... ...dies... ...visits... ...finds... ...have a baby...
...marries... ...falls in love with... ...teaches him/her to... ...decides that...

③ My Opinion (自分の意見・考え)
まずめる (自分の意見・考え)
In my opinion... I think that... I recommend...
「私の考えでは . . . 」 「私は . . . だと思います」 「私は . . . をおすすめします」

Rubric (ルーブリック) 評価表

項目	内容	評価
A	本の内容がわかりやすく説明している。適切な理由を述べている。	5点
B	本の内容がわかりやすく説明している。適切な理由を述べている。	4点
C	本の内容がわかりやすく説明している。適切な理由を述べている。	3点

3. ビブリオバトル Bibliobattle in English



おススメ理由

導入：1分

- ・質問を投げかける
- ・個人の体験を語る
- ・ジャンル紹介
- ・概要紹介
- ・著者紹介

中盤：3分

- ・おススメ理由
- ・ポイント1つ目
- ・ポイント2つ目
- ・ポイント3つ目

まとめ：1分

- ・3つのポイントまとめ
- ・おススメ理由
- ・読んでほしいと伝える

実践と理論的背景

- 多読 × KrashenのInput Hypothesis
- Book Report・プレゼン × SwainのOutput Hypothesis
- ビブリオバトル × Interaction Hypothesis (相互作用仮説)
+
Sociocultural Theory (社会文化理論)
- 人前で話す活動 × Affective Filter Hypothesis (情意フィルター仮説)

1. 多読 × KrashenのInput Hypothesis

理論の説明：

- インプット仮説は、「理解可能なインプット (i+1)」を大量に浴びることが言語習得を促進するとする。
- 習得は意識的な文法学習ではなく、自然な言語の理解過程で起きる

実践との対応：

- 多読では、辞書を使わず推測しながら「意味がわかるレベルの英文」を大量に読む。
- 絵本やレベル別リーダーなどを使うことで、i+1を自然に確保。

2. Book Report・プレゼン × SwainのOutput Hypothesis

理論の説明：

- 「言語を使って表現する過程で、学習者は自分の知識の限界に気づき、言語形式を意識的に処理するようになる」
- アウトプットは、単なる再生ではなく、言語知識を統合・再構成する認知的プロセス。

実践との対応：

- Book Report (要約・感想・推薦) は、インプットされた情報を構造化して自分の言葉で再構成する行為。
- 自分の語彙でどう伝えるかを試行錯誤する過程で、形式・語順・語彙に「気づく」 (Noticing)。

3. 1ビブリオバトル × Interaction Hypothesis (相互作用仮説)

理論の説明

①：Interaction Hypothesis (Long)

- Michael Longによる仮説。「理解に向けた相互作用 (Negotiation for Meaning) が習得を促進する」
- 意味が伝わらない時の「聞き返し・言い換え・再構成」が、理解と産出のズレを調整するプロセス。

3. 2 ビブリオバトル + Sociocultural Theory (社会文化理論)

理論の説明②: Sociocultural Theory

学習は他者との**社会的相互作用（特にZPD内での支援）**を通して進む。
他者との対話を通じて、内的言語が発達し、自己調整が可能になる。

実践との対応:

- 他者の前で本を紹介し、質疑応答を通じて「交渉する」経験を得る。
- 聴衆の質問やリアクションを意識することで、社会的な文脈での英語使用が自然に育つ。

4. 発表 × Affective Filter Hypothesis (情意フィルター仮説)

理論の説明

- ✓「動機づけが高く、不安が低い状態では、インプットがよりよく処理される」
- ✓高すぎる不安は、インプットが脳に届くのを妨げる
- しかし…

一方で「ゼロ不安がベスト」ではない

実践との対応

- ✓あえて人前で英語を話す経験が「不安を乗り越える訓練」となる。
- ✓成功体験の積み重ねにより、「英語で話せる自分」という自己効力感が向上 → フィルターが下がる。

4技能5領域と多読

多読 → リーディング
ブックレポート → ライティング
プレゼン → スピーキング
クラスでの発表・質疑応答
→ リスニング・インタラクション



課題と今後

課題

- ☐ 時間の確保
- ☐ 評価
- ☐ コスト面

今後

- ✓Before / After の意識調査
- ✓自己効力感 (Self-efficacy) のチェック
- ✓英語使用時間・読書量・語数データ化
- ✓語彙力 + Readability
- ✓語彙サイズテスト (Vocabulary Size Test)
- ✓多読語数・冊数の記録
- ✓Readability × 自己評価

最後に 「多読」とアウトプットは・・・

- 理論的な裏付けがしっかりある
- 頻出語の反復提示 → sight word / chunk習得
- 文法・語順を明示学習なしで吸収 (implicit learning)
- 語彙・読解力・モチベーションの向上
- 英語力の4技能を自然に育てる
- Input → Output → Interaction の統合
- 意味のある英語使用場面
- 自信や自己効力感の向上
- L2自己 (Dörnyei) の形成
- 協働学習・コミュニケーション力
- 自分で選べる・読み切れる → 成功体験
- 推測読み・意味重視の読み → 読解速度UP
- 辞書に頼らない処理能力

- 参考文献：
- Krashen, S. (1985). *The Input Hypothesis: Issues and Implications*. Longman.
- Day, R. & Bamford, J. (2002). *Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading*. Reading in a Foreign Language.
- Swain, M. (1985). *Communicative competence: Some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development*. In S. Gass & C. Madden (Eds.), *Input in Second Language Acquisition*.
- Schmidt, R. (1990). *The Role of Consciousness in Second Language Learning*. Applied Linguistics.
- Long, M. (1996). The role of the linguistic environment in second language acquisition. In W. Ritchie & T. Bhatia (Eds.), *Handbook of Second Language Acquisition*.
- Gass, S. M. & Mackey, A. (2007). *Input, Interaction, and Output in Second Language Acquisition*. Routledge.